

スカルフェイスは顔が
怖い

サイリウム

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

トレンセン学園にいるかもしれないとっても顔が怖いウマ娘のお話。

目次

スカルフェイスは顔が怖い	1
ゴルシも怖いものは怖い	6
会長だつて怖いのだ・1	15
会長だつて怖いのだ・2	27

スカルフエイスは顔が怖い

日本ウマ娘トレーニングセンター学園、通称トレセン学園。

東京都府中市に所在し、2000人以上の生徒が日夜、トウインクルシリーズで活躍するために鍛錬を積む場でござえます。

今回はその学園に所属する一人のウマ娘の話をさしていただきましょう。

名はスカルフエイス。

高等部に所属するウマ娘でございますが、実はいろいろな噂話がございまして、

やれ、絶対に犯罪に手を染めている。

やれ、暴走族のトップである。

やれ、URAを裏から操っている。

やれ、ゴルシが唯一いたずらを仕掛けない。

などと今簡単に上げたものでもひどい言われよう。しかもこれはほんの序の口であるからおもしろいところ。

実は彼女自体、根の優しい一般的なウマ娘であり、虫すら殺したことはないか弱い乙女ではあるのですが……

まあなんでこのような根も葉もないような噂話があがってしまったかといえますと

とんでもなく顔が怖いのです。

あのすべてのウマ娘を幸せにしたいと公言する冷静沈着な生徒会長、シンボリルドルフが初対面で

「え、こわ……」

と、こぼしてしまうほど凶悪な顔つきであり、あのライスシャワーは彼女の顔を見たときに号泣しながら裸足で逃げてしまうほど怖いのです。

しかもとんでもなく口下手で全くというほど喋ることがない、所謂コミュ障であり、身長が高く、ガタイも無駄にいいので顔の怖さを助長してしまっている。性格だけは非常にいい子であり、川でおぼれている子猫を自身の服が汚れるなどを考えずに、すぐに飛び込んで救出するほどののだが、顔とその他もろもろのせいで台無し何でございませぬ。

かくいうわたくしも初対面の時は驚きまして、ちよいいとばかり勘違いしてしまったのは良い思い出です。

ま、そんな顔の怖さだけで盛大に損をしているそんな彼女にでも好きなものが存在しました。

ウマ娘。

彼女は自身以外の可愛らしいウマ娘たちが大好きだったんですね。

先ほどであげたシンボルドルフとの初対面の時も脳内で

(は!? カッコ良すぎるんだが???) なにこの凛々しいお目目にきりつとした口先! 惚

れてまやろ！ いや惚れたんですけど、どう責任取っていただけるので??? というかこのカツコイイ会長のお口からオヤジギャグが出てくるとか考えられないんだけど！ギャツプで尊死しそうなんだけど！ ああ、もうどうしたらいいの!!! ツ！ 駄目よスカルフェイス！ いくら会長が尊いからといって顔を崩したら！ きりつとしてちやんと受け答えしないと！

「よろしくお願いいたします。」（こみでる尊みを抑えるために顔が引きつってる。）

「え、こわ……」

と、なっていたという寸法。

ま、そんなスカルフェイスの話をしていこうと思っておりますので、お付き合いいただければ、と。

おっと、申し遅れました。わたくし今回の語り手を務めさせていただきます、彼女の

大親友のアグネスデジタルと申します。以後、よしなに。

ゴルシも怖いものは怖い

さてさて皆様、今回も語らせていただきます。

とつても顔が怖いウマ娘の話。

怖すぎて虫も殺せないような乙女が個性の魔境と言われるトレセン学園でいかに頭角を現していったのか、語らせていただきます。え、お前も個性の塊だろうか？
何のことでしょう？

と、いうわけで今回は彼女の逸話の一つ、ゴールドシップとの関係性を語らさせていただきます。

ゴールドシップ、このウマ娘。なんとイタズラが大好き。西へ行つてトーセンジョーダンにドロップキック。東にいてはメジロの御令嬢にからし入りたい焼きをたらふく

プレゼント。彼女のいく先にはたくさんの喜劇と後からやってくる”とつつあん”ことエアグルーヴのストレスからくる胃痛が絶えないというなんともすごいウマ娘でございませうが、やっぱり彼女にも苦手なものがございませう。

彼女、イタズラは仕掛けるけど、本気で怒るようなイタズラはしなかったり、後始末はきっちりしていたりとそこるところしっかりしているのですが、彼女にもいたずらを仕掛けられない相手がございました。

そう、スカルフフェイスでございませう。

本人からことの本末を聞いた時は驚いたものです。だってその時彼女はあのシンボリドルフ会長に対してイタズラを仕掛けていたもんですから、会長は良くて彼女は駄目なのかと驚いたもんです。

あ、ちなみにその時は会長が丹精込めて作成していたダジャレ帳に彼女の厳選した洒落を思いつく限りかき込んだそうです。数日生徒会室から会長の笑い声が途切れることはありませうでした。

ま、そんなことは置いてスカルフェイスのことです。

なんでイタズラを仕掛けないんですか、と聞いたところ。

「……マジで言ってる？ いやアイツ怖いじゃん。いたずらしたとして、報復でロケランぶつ放してきそうで怖い。さすがにゴルシちゃんでも無理です。」

と、一言。

いや、ロケランってコマンドーかよ。と思つてしまいましたが大たくし懇切説明。彼女いい子だから親交を深めるためにでも軽いイタズラでもいいから仕掛けてあげてくれませんか、と。

この時私、何といいますか彼女の交友関係を危惧しておりまして、このまま私ぐらいと接点なかったらどうする、と思つていましたから真剣でございました。まあ大たくしの趣味が入っていないなかつたという嘘になりますが。だって今まで顔のせいで嫌われていた、怖がられていた子がみんなと仲良くなつていくのって尊みが深いじゃん。見た

いじゃん。デジさんのポリシーに反しちゃうけどこのままだと起きるものも起きないので頑張りました。

あいつ顔が怖いだけですごく損してるんですよ。しかも口下手だからさらに。どうかあいつのためにもやってくれませんか、と
友達私ぐらいしかいなくて色々苦労してるんです、あいつ。

その説得のおかげか……

「ん〜、ホントにそうなのか？ いやホントにそうなら悪いことしてみたいんだけど……、まあものは試しに軽いのやってみようかな？」

とうまくいきました。

イタズラの内容は軽め？と言っていましたがあたくし的には重め。まあゴルシちゃん的には軽めだったんでしょう。よくあるドアを開けた瞬間にものが落ちてくるタイプの物でした。

落ちてくるものはバケツ一杯のお水。ここでニンジン、とかにしておけばよかったんですが、デジたんちよつとずぶ濡れのスカルちゃん気になちやつて止められませんでした。だつてスケスケ、ねえ？

手順としてはわたくしがスカルフエイスを空き教室に呼びまして、ゴールドシツプと私が教室内で待機、そこにスカルフエイスがやってきてドアを開けた瞬間にバケツがひっくり返る。そして水浸しになった後に二人でイタズラ大成功、のプラカードをもって登場！ という手はずでした。

計画は良かったんです、計画は。

スカルフエイス、わたくしから新しいお友達候補発見！ というお話を受けてもう狂気乱舞。いつものこわいお顔が3割増しで怖くなるような素晴らしく口角が引きつった笑顔と鼻歌を共にスキップで呼ばれた場所に向かいます。

いつもは他のウマ娘の皆さん、すれ違う時に顔をそむける、我関せずの態度を取るのが普通ですがその時ばかりはすれ違うすべてのの方が顔を壁の方に向けて一切彼女が視

界に入らないように、嵐が過ぎ去るのを蹲って待つ幼子のように壁に向かって直立していたそうです。

実際に見たわけではありませんが多くのウマ娘にとつての恐怖の対象が引きつった笑みを浮かべ、鼻歌を歌いながらスキップで近づいてきたら仕方ないのかもしれないかもしれませんがよいとばかりしヒドイなどおもってしまう次第。

ま、そんなルンルンで空き教室に向かってきた彼女はうれしさのあまり思いっきりドアを開けてしまうのです。

まあその思い切りの良さが今回ばかりはよろしくなく、勢いよくトラップが作動し思っていたよりも激しく彼女にバケツの水がぶちまけられます。

私とゴルシさん、多分同じこと思ってたんじゃないでしょうか？

「あ、ヤベ」と。

彼女、すぐには何が起こったのか解りませんでした。私とゴールドシップさんを見て物事を把握。

自分のためにイタズラを仕掛けてくれたんだと歓喜。まあこの子顔のせいでろくな交友関係がなかったせいでこのようなイタズラされることが初めてですごくうれしかったです。

まあそのせいで、先ほどよりも口角をあげて、怖さ5割増しのいい笑顔で笑い出しちゃったんです。

「いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ」

まああの時ばかりはこのデジたんも恐怖を覚えました。

びしょ濡れで、元も髪が長めだったため幽鬼のようになっており、口は怖いぐらいに三日月形。それにそんな不気味な笑い方されたら、ねえ？

ゴルシさんもうお顔を真っ青にしてブルブル震えだし、

「い、いめんなさい〜！」

と、叫びながら逃げていつちやいました。

スカルフフェイスちゃんはせつかく新しいお友達出来ると思っていたのにしよんぼり。

ま、これがこの話の顛末でございました。

ちなみにそのあとゴルシさんはマックイーンさんのお部屋に逃げ込み、彼女の布団の中で二、三日ブルブル震えていたそうです。マックイーンさんが

「なんとというか、母性、というのでしょうか？ いや孫？ なんだか、かわいがりたくて仕方ありません。」

と、いうのを聞きデジたんのデジたんがスプラッシュしてしまったのはご愛敬。

皆様もイタズラにはお気をつけくださいませ。

あ、ちゃんとゴルシさんは元に戻りましたよ。ただ、誤解はさらに深まってしまいました。が。

会長だつて怖いのだ・1

皆さま、お久しぶりでございます。今回も語り手を務めさせていただきます、アグネスデジタルと申します。まあわたくしの話し方がいつもと違うつてのはこういった場、ということでご容赦いただければ幸いです。

だから、そこ。ギャップだとかで笑わない。

……おほん。では今回も顔が怖すぎるウマ娘こと、スカルフエイスのお話。最後まで聞いてくだされば、これ幸いです。

さて、今回させていただくのはここで初めてお話しさせていただいた時に少しだけ話した、彼女と我らが会長シンボルドルフとの邂逅。初対面の時のことについてお話しさせていただきます。

時は遡りまして、結構前。そう彼女ことスカルフエイスがトレセン学園に編入してき

たときのお話となります。彼女、このデジたんなどは違い、編入生でございまして、高校に上がったときにこちらにやってきた生徒となります。まあそのせいで彼女の友人の少なさを助長している分もございしますが。

まあそんなわけでやってきましたスカルフェイス。なんと前評判からもマイナスに振り切っております。彼女、中央に入れる、それも編入なので結構実力はありまして、地元の地方トレセンの方では負けなしだったそうです。

その負けなしの彼女がなんでわざわざ中央にやってきたかというところ、強い相手と戦いたい。……とかではなくて、単に地元に住づらくなり、中央に行ける実力があつたから逃げて来た、というのが正しいのです。

先日、彼女の帰郷に付き合わせていただきましたが、なんとまあすごいものでして。町を歩けば地元のトレセン学園生と思われる制服を着た方に

「姉御！ お疲れ様です！」

「いつ帰ってきたんすか姉御！ 中央はどうでした！」

「姉御！ 溜まってたぶんのシャバ代です！ お納めくださいませえ！」

とまあ彼女の舎弟だらけでございました。うん。

彼女の話によると、何でも持ち前の顔の怖さと口下手が幸いして、知らないうちにそういうアウトローな方々の統領になってしまい、多分現在進行形で拡大していつてい

る。
気が付いたら周りヤクザみたいな人ばかりで、そんな人たちが自分のこと担ぎ始めているのが非常に怖くなり、逃げるように中央に編入手続きを進めていたそうです。

はつきり言って、ヤバいですよね。あ、あとデジたんは中央の舎弟第一号として扱われました。それを弁明しようとしてスカルちゃん頑張ったところ、何故か中央の幹部だと勘違いされて彼女の組織が中央まで拡大しているとまで勘違いされました。彼女の舎弟の方々にはスカルフフェイスが府中で一代組織を作り上げ、その頂点にいますと考えているそうです。

ま、そんな前評判と共に中央に移籍したスカルフフェイス。彼女自体なにもしていないので経歴は真つ白で転入はうまくいきましたが、噂がヤバい。当然受け入れる学園側も警戒度MAXです。

当時流れていた噂としては暴走族の総長、地方トレセンを裏から操るヤバい奴、経歴

詐称、実は人を何人か闇に葬った、などなど。

そんななか立ち上がったのは我らが会長シンボリドルフ。このトレセン学園を荒らされるわけにはいかない彼女。すべてのウマ娘を幸せにするべく、まずは我が学園の安寧を守るべく動き出した彼女はまず最初に面と向かってお話をしようとしたそうです。

編入初日に生徒会室に来てもらい、本当にスカルフエイスのうわさが真実なのか、それとも経歴通り真つ白なのか話し合って確かめようとしたんですね。

まあそんなこんなでスカルフエイスちゃん、トレセン学園にやってくる日になりました。

このスカルフエイスちゃん、ウキウキです。なんとと言っても新天地。今までの自分と決別し、新たなお友達を作って楽しいスクールライフを送るんだという希望を胸に、自然と口角が上がります、引きつります。

迎えるべきは我らがシンボリドルフ会長。本来なら理事長秘書のたづなさんが対応なさるんですが、今日に限ってお留守。かといって他の方は噂のせいで怖がってやりたがらないので会長が担当なさることになりました。

あの時、非常に凜々しいお顔をしておりまして、

『私がこの学園を守るんだ！』

みたいな意思がありありと見えておりまして、デジたんそこら辺の木に隠れながら真つ赤なエナジーがあふれ出るのを食い止めておりました。

そして迫る時間。やってくるスカルフェイス！

彼女、そういうのはしっかりしてるので時間通り定刻！　しっかりとやってまいりました！

ですが問題は顔！　口裂け女かというほどにひん曲がってしまったお口！　希望に満ち溢れたせいでらんらんと光るお目目！　新天地のせいでちよつとばかしテンションが上がってるせいで笑い声が口から洩れている！　もはや怪異！

ゆつくりと近づいてくる怪物。この時デジたん何も知らなかったので隠れながら震えておりました。まったく知らない感じたことのないプレッシャー！　歓喜の大きさ

のせいで逆に恐怖につながる威圧感！ デジたんは震えます……、が、ここで希望を思い出します！

そうだ、私たちには会長がいるじゃないか！ 会長なら何とかしてくれる！ 会長ならカツコよく撃退してくれる！

だってあのオグリキャップに対して

『中央を舐めるなよ。』

とまで言った会長だぞ！ 今回も……、と思いながら会長が仁王立ちしている方に顔を向けます。

プルプルプルプルプルプルプルプルプルプルプルプルプルプルプル

足が、小鹿のように震えていらっしやる。

デジたん思いました。

あ、終わったな、と。

「それで……………、挨拶……………、実家……………、だめ？」

「えーっと、初めての友達だし、家族に紹介したいからこの休みを活用して一緒に実家に来て欲しいってことでいいの？」

コクコク！

「いや、別にいいんだけどホントに大丈夫？ 確かあんまり帰りたくない場所じゃないんでしょ。」

家族に紹介したい欲VS地元ヤンキー怖いVSダーククライ

……………

勝者、家族に紹介したい欲！

コク！

「オウ、またなんか葛藤してましたね。んじや、行きましようか。」

（まあデジたん普通にスカルちゃんのお家気になりますし、噂の真相がどうなのかも気になるから前から行ってみたかったんだよね。デジたんの好みは少ないだろうけど友人の頼みですしお寿司、一肌くらいぬぎませあ！……にしても相変わらず口下手というか単語だけというか。）

—————

結果。

「姉御！ お疲れ様です！」

「いつ帰ってきたんすか姉御！ 中央はどうでした！」

「姉御！ 溜まってたぶんのシヤバ代です！ お納めくださいませえ！」

デジたんたち数十人のウマ娘ヤンキーの方々に囲まれております。あ、でもこれもなんか新感覚でいいかも……、は！ いけないいけない。隣でマイフレンドが助けを求めているのだ！ こんなところで終われない！

「それで、姉御！ その隣のちっせい奴は誰ですか！」

「あっちでの新しい舎弟ですか！」

「オイこら！ 俺らの方が先輩なんだからなあ！」

あ、舎弟認定されとる。

「違う………!!! デジタルは………友達。」

ヤンキー怖いのにその恐怖を振り払って誤解を解こうとした。私のために頑張ってくれた。

あ、ごめん。もう無理、尊い（浄化）

「友、達。」

「い、いままで姉貴がダチ判定なさった奴なんかいねえ！」

「と、いうことは……」

「「「「も、申し訳ございませんでしたー！ー！！！！」」」」

そこにいたアウトローな方々が全員土下座なさっている。ごめんちよつと尊みを何とか消化してるから待って。

「あ、姉貴のダチとは露知らず、舎弟扱いしてしまい！」

「この失態、なんとお詫びすればいいか！」

「私、今から指詰めます！」

その後、デジたんが真つ赤なものがあふれ出るのを何とか耐えている間。勘違いは進んだがスカルちゃんが何とかしてくれた。感謝である。

会長だつて怖いのだ・2

さて、話は戻りまして我らがシンボリドルドルフ会長の場面でございます。

そう、会長。足がプルプルでございます。

もう生まれたての小鹿のよう！ でもでも、顔だけはしっかり、きつぱり、くつきりと。

トレセンに向かってゆつくりと歩を進めるスカルフエイズを見つめております。

ここで元凶スカルフエイズちゃん。やつとこさ校門の前で仁王立ちをしていらつしやる会長を視界に入れます。

さつきまでウキウキだった彼女。

会長を視界に入れたこととあることを思い出します。

彼女をトレセンに招き入れたのは実は理事長秘書のたづなさん。最終的な許可は理

事長のちみっこでござえますが、話を持つてきたのは彼女でございます。そのたづなさん、実は初めてやつてくる彼女にあることを教えておりました。

『ごめんなさい、スカルフエイスさん。本当は私が学園を案内する予定だったんですけど緊急の会議が入ってしまったてあなたが来る頃に迎えに行けなさそうなんです。一応代役にシンボリドルフさんを立てておきましたので、仲良くしてくださいね。今は生徒会長なんかやつてますけどかわいい子ですし、仲良くできると思いますよ。あ、ルナちゃん、彼女の愛称なんですけどそう呼んであげると喜ぶかもしれませんね。』

そう、たづなさん。教えちゃってるんです。この話をするために色々取材なんかを行っているのですが、たづなさん悪気一切なくてこれ話してるんですよね……。今となっては会長のルナちゃん呼びは一定の市民権を得てはいますがスカルちゃんがつてきたときは話は別。会長の認めた、彼女の参謀といえるトレーナーさんにしか話したことのない呼び名無そうで。

……いまさらですけどなんでたづなさん知ってるんでしょう？

まあ彼女所謂戦後の賭け事が行われていた時代で先頭を走っていたなんていう噂もございますし、反社的なものに対する寛容さとか、異様な情報収集能力とか疑問の残る

ことが多いですが、突っ込みすぎるとデジたん明日の朝日を迎えることが出来なくなってしまうのでお口チャック。

ま、そんなわけでスカルちゃん思ってます、『あ、たづなさんが言っていたシンボルドルフさんだ！ あ、でも生徒会長さんだよね……、丁寧に話した方がいいのかな。でもたづなさんルナちゃん呼びしてあげると喜ぶって言ってたし、そう呼んだ方がいいのかなあ……、あ！ 笑顔笑顔！』

てな感じで口裂け女フォームを維持しながら一歩、また一歩と前進を始めるわけでございます。

しかもこの子、根がいいのでお待たせするわけにはいかないと速度上げる、まあ駆け足になるんですね。

会長としては恐怖倍増でございます。ちょっとづつちよつとづつ近づいている恐怖が速度を上げてきたわけですから、足の震えもその分酷くなります。ちなみにデジたんはこの辺りで会長がだめだと理解してしまい、意識をバイバイしてしまっているのここからはご本人方に聞いた話を元にお話ししますね。

スカルちゃん、ついに会長の目の前にたどり着きました。ウマ娘にしてはかなり大きな身長190オーバーの巨体、それが見下ろすような形でシンボリルドルフを見るわけです。

第一声、

『これからお世話になります、スカルフフェイスです。』

スカルちゃん、ちゃんと挨拶できてエライ！でも笑顔が大事って思っているので口裂け度が上がっているぞ！あと緊張しているせいか声が固まってさらに怖いぞ！

会長、これを聞きまして考えます。

『お世話になる』の意味を。

スカルフフェイスにとっては普通の挨拶、でもでも会長にとっては看過できません。

お世話になるとは一体全体どういうことなのか、噂通りのやべー奴で、夜露死苦的なお世話になるのか！

でもでも会長、ここで話を大きくするわけにはいきませんが、まだ勘違いの可能性もございませす！

ここはできるだけだけ穩便に、また間違いだった時にリカバリーできるような感じで返答しなければ！

会長の脳みそフル回転、ここで思い至った回答は……………！

『ああ、ここちらこそよろしく。』

うん、無難！　そして会長おてて伸ばして握手の構え！

こっちはことを大きくしてもらっては困る！　おとなしくしてほしい！　後できたらなかよくしようねの握手！

スカルちゃん大歓喜！　ここが所謂友情の握手というものではないかと勘違い！

嬉しくなつてもつとニコニコ！　おてて差し出して握手を受け入れます！

ここでスカルちゃん……、いらんことを考えちゃいました。

相手側がこっちの嬉しいことをしてくれたんだ、こっちもお返ししてあげないといけないね、との好意！

『ええ、よろしくお願いしますね、ルナちゃん。』

その言葉を聞いた瞬間、会長に電流が走ります。

なんでその名前を知っている、です。このルナちゃん。会長の幼名でございまして、彼女の親しい人ぐらいいしか知らない秘密の呼び名でした、当時。

つまるところルナ、という呼び名を目の前の彼女が知っているわけなんてありえるはずがないんです。

スカルフフェイスが「ルナ」なんて名前、知ってていいはずがないんです。

会長、ここで思い当ってしまいます。

……もしや、私の親しい人に何か拷問的なことをしてその名前を知ったのではないか

!

わざわざその名前を使ったということは、『逆らったらどうなるか、解ってるよね、ルナちゃん？』ではないか!? 私が何かスカルフェイスにとつて不利なことをしてかしてしまった場合、私の幼名を知っている家族、もしくは会長のトレーナーに何らかの被害が及ぶのではないか!

会長、考えちゃいました。

でも、ここで関係のない人たちに危害を加えないでくれ、なんて叫んでしまえば彼女の気分が悪くなってしまうことは確実に、だって彼女は『お世話になる』としか言っていない。

『ああ、こちらこそ。よろしくお願いする。』

会長としてはそう返すしか方法はないのでした……。

まあもちろん完全な勘違いですしお寿司。会長のご家族には何もごさいませんし、会長のトレーナーはピンピンしております。スカルフエイスちゃんはずなさんに教えてもらったことを実行しただけなので……

ま、誰が悪いとかない悲しい勘違いでしたね、うん。

でもまあこの勘違いは色々と後に引く事件になっていくのですが……、ま、それはその時にお話ししたいと思います。

最後までご清聴ありがとうございます。

話し手は、私、アグネスデジタルが務めさせていただきました。

次回も足を運んでくださればこれに勝る幸福はございません。

では、またの機会に、ということでの場を示させていただけます。

ではでは
ははは